

第16回「油流出に関する国際シンポジウム」の開催について

2014年1月

石油連盟は毎年、国の内外から油濁対応に関わる専門家を招き、隔年で国際シンポジウム、ワークショップを開催しておりますが、今年も下記のとおり国際シンポジウム（油流出対応の体制と技術～近年の大規模事故を踏まえた進展～）を開催いたします。

記

1. 日時：（1日目）2月6日（木）10：20開会～16：40閉会
（2日目）2月7日（金）10：00開会～14：40閉会

2. 場所：経団連会館2階 国際会議場

3. 講師：【基調講演】ロバート・リム氏（OSRL社長）

【講演（順不同）】

コリーン・オヘイガン氏（ITOPF（国際タンカー船主汚染防止連盟）

シニア・テクニカル・アドバイザー）

アイエッド・アルマサービ氏（ADNOC（アブダビ国営石油会社）

戦略調整局 危機・非常時対応部長）

ニック・クイン氏（AMOSC（オーストラリア海洋油汚染センター）

ゼネラル・マネージャー）

ヨルマ・リトコーネン氏（SYKE（フィンランド環境研究所）

調査研究マネージャー）

ニュイエン・ウイ・トロング氏（国立南部油汚染対策センター（ベトナム））

副所長）

ティラポル・ファパーコーン氏（PTTグローバル・ケミカル・

パブリック（タイ）スペシャリスト）

萩原貴浩氏（一般財団法人 海上災害防止センター 防災部長）

4. 開催目的：

（1）米国メキシコ湾のディープ・ウォーター・ホライズン油流出事故等、最近発生した大規模油流出事故は、関係各国で対応体制や技術的な改善を図る契機となった。各国の油濁対応専門家の講演を通じて、これらの改善について、最新情報を収集するとともに、国内関係者と広く情報を共有する。

（2）世界各国の専門家を招聘し、我が国の関係者が直接に意見交換や情報交換できる機会を提供する。

（3）「大規模石油災害対応体制整備事業」における調査・研究事業成果を報告し、国内外関係者と共有する。

5. 出席者：約180名（経済産業省、海上保安庁、その他国内外油濁対策関係者）

以上